

令和6年度 第2回 学校運営協議会 議事録

○期 日：令和6年8月27日（火）

○時 間：9時45分～10時20分 校舎見学及び授業参観
10時25分～11時25分 会議

○場 所：プレイルーム

○出席者：学校運営協議会委員4名 A委員（教育関係者）
B委員（社会福祉関係者）
C委員（地域関係者）
D委員（地域企業関係者）
E委員（町内会関係者）
学校関係者8名 校長、副校長2名、事務長、総括教務主任
小学部主事、中学部主事、高等部主事

○欠席者：学校運営協議会委員2名 F委員（地域関係者）
G委員（生徒保護者）

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 校長挨拶
- 3 出席者自己紹介
- 4 議題
 - (1) 地域との協働による教育活動について
 - (2) その他
- 5 提 言（意見・要望・感想等）
- 6 連 絡
 - ・次回開催 令和7年1月22日（水）
- 7 閉 会

1 開会

2 校長挨拶

先日の台風5号の影響も様々心配されたが、幸い本校では児童生徒、保護者、教職員、学校施設設備等において特に被害もなく無事に済んだ。本校では児童生徒の健康安全と職員の働き方改革に配慮しながら学校経営を進めているところである。学校運営に地域の皆様の声を反映させることで、地域と一体となった学校づくりを進めていきたいと考えている。今日はたくさんのご意見、ご感想をいただければありがたい。

3 出席者自己紹介

初対面となる出席者がいないため割愛。

4 議題

(1) 地域との協働による教育活動について

副校長：今年度の取り組みについて、毎年行っている三角花壇の整備について、今年度は花苗の成長具合や生徒の実態等により実施できなかった。今後も皆さんからのご意見を伺いながら取り組んでいきたいと考えている。

C委員：三角花壇の整備については、今年度は仕方がないと思っている。今年度は久慈東高校から花苗を購入して植えた。次年度また久慈拓陽支援学校で取り組むとなれば、是非お願いしたいと考えている。あまり気負いしないで取り組んでもらいたい。

E委員：堀切の花壇整備については、町内会として子どもたちと一緒に植えること自体を楽しみながら参加している。今年の参加者からも楽しかったという声をいただいている。「かかわり」ということで、町内会としても学校の取り組みについて、教育活動のお手伝いになれば良いと考えている。

B委員：災害対策という話が出てきたが、釜石祥雲支援学校では空調設備も整備された避難先施設として指定されているとの話を聞いたが、久慈拓陽支援学校では設備的に受け入れる対応は可能なのか？

副校長：本校は体育館については空調設備がないため、活用は難しい。プレイルームや各教室などは空調設備が整っているため受け入れ場所として可能かと思われる。ただし、学校として現時点では指定避難所に向けての整備を何かしているというわけではない。

(2) その他

A委員：先ほど小中学部の授業を見学させていただき、一人一人に対応した教材の準備や指導が素晴らしいと思った。本校の職員や市内の小中学校の先生方にも、是非見せてあげたいと思った。個別最適化につながる指導だと感じた。

C委員：6年生が修学旅行に向けて、様々な学習に取り組んで楽しみにしているということで当日は是非天気にも恵まれることを願っている。また、9月には秋まつりでの交流もあるとのことで、こちらも是非良い取り組みになることを期待している。

D委員：先ほどの授業見学を通して「個別」ということがキーワードとなって取り組まれている

て、とても良いなと感じた。ただ、指導に関してはアナログだなとも感じた。アナログは先生が変わればやり方が変わりやすい。アナログなやり方は「個別」な指導という点で強みであり、働き方の点で見れば弱みにもなる。デジタルな方法というわけではないが、先生が変わってもやり方が変わらない方法という点で、「個別」という良さを生かして、その指導が今後どう変わっていくのか興味深いところである。

5 提言

B委員：個別の対応はどうしてもマンパワーを要する。現場の体制を考えたとき、人材の確保が課題になるだろう。これについては国全体で考えていかなければならない問題ではないか。復興教育については、ここまで緻密に考えられていたことに驚いた。我々も同じように共有していく必要があると感じた。社会福祉協議会の立場では「つなぐ」がキーワードとなる。防災対策としては、社会福祉協議会も避難所設備として、空調も完備された。久慈拓陽支援学校の計画も含め、情報を共有しながら地域における「つなぐ」役割を果たしていきたい。

C委員：災害対策に関して、先の大雪や最近の台風など近年災害が多いと感じている。今後も連携を取りながら対応していきたい。また、久慈市内の中学校の統合について、現在様々な面で調整中であるが、久慈拓陽支援学校との行事などにも影響があるかもしれないので、知っておいていただきたい。本日は市民センターで地域住民との意見交換会が予定されているので、もし関心があれば久慈拓陽支援学校も参加していただきたい。

D委員：「協働」という言葉を大切にされていると感じた。「協働」とはかかわりをもつところからスタートするが「かかわる」というその次の段階では「協働の質」が求められるのではないかと。また、「かかわる」活動がただ増えれば良いというわけではなく子どもたちにとって何が必要か精査し、質の高い教育環境を作っていくことが大事なのではないかと思う。

E委員：地域住民としては、これからも学校からの求めに応じて対応していければ良いと思う。学校の取り組みをこれからも応援していきたい。

A委員：復興教育についてこれまでの活動を「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの視点で整理した取り組みはすばらしい。久慈中学校との統合について、現在小・中学校PTAからは同意を得られ、教育委員会へ報告したところである。あとは地域の同意が得られれば、予定どおり令和8年度に統合し、開校する予定である。久慈拓陽支援学校との交流の在り方についても今後1年かけて相談していけたらと考えている。

校長：個別の対応は確かに教師の手腕が問われる。我々も日々専門的な研修をしながら、客観的に指導内容の精査検証をしていく必要がある。複数の職員で対応しているため、どの職員でも同じ対応となるよう、日々情報共有と共通理解を図りながら進めている。一方で、対応する人が変わることでまた違う効果が期待されることもある。ICTについては主に授業の導入などで興味関心を引き出すために使うことも多いが、児童生徒によってはタブレットなどを巧みに使いこなして活用している子もいる。また我々職員の働き方改革の観点で校務においてICTの活用も進めているところである。災害対策については今後も校内外での連携した取り組みを続けていきたい。今日はたくさんのご意見をいただき、ありがたい。今後の学校運営に生かしていきたい。

6 連絡

- ・次回開催 令和7年1月22日(水)

7 閉会